

2024年2月2日 Vol.215

出揃った2月のIPO5銘柄

年初の堅調な株式相場の中で、いよいよ令和6年のIPOが始まります。1月の日経平均は昨年末から8.6%の上昇を見せましたが、旧マザーズ指数であるグロース250指数はわずかに0.7%の上昇に終わったという事実を知る必要があります。資金量豊富な海外投資家や機関投資家が主導する株高は趨勢的にリスクマネーを吸収するのに十分な時価総額の大きな銘柄群に向かい、グロース市場にまでは向かっていないというのが現状なのです。そのため直近の業績不安感のあるIPO銘柄を中心にその多くが右肩下がり展開を余儀なくされている状況です。

こうした相場状況の中で2月のIPO5銘柄の取引が7日のSOLIZE(5871・S・公開価格1470円)を皮切りに始まります。同社はエンジニアの派遣・請負による設計支援、3Dプリンターによる試作や最終製品の製作及びその製品開発を革新するコンサルティング企業。主力顧客は本田技研で売上の2割を占めています。決算期は12月上場後に決算発表が予定されているかで見られます。既に公表されている推定業績は売上高198億円(前期比+11.2%)、営業利益8.67億円(同+27.5%)、EPS130.9円となっており、44円配当を実施予定となっており、3Dプリンター関連のモノづくり支援企業として注目を集める可能性はあります。

これに続くのはいずれもグロース銘柄ですが、8日のVeritas In Silico(130A・公開価格1000円・創薬プラットフォーム)、22日のVRAIN Solution(135A・製造業向けAIソリューションの提供)、28日の光フードサービス(138A・立呑み居酒屋)、Cocolive(137A・不動産業界向けマーケットオートメーションツールの開発)となります。これまでは上場企業の識別のために1300から9999までの4ケタの数字が割り振られて参りましたが、コード番号が不足し始めたため4ケタの数字に加えて、その中に19種類のアルファベットを入れて表現することになり、それが2月のIPO銘柄から始まることとなります。4ケタのコード番号に慣れてこられた投資家の皆さんには多少の混乱、戸惑いも予想されます。また、これまでもそうでしたが、これからはますます、コード番号だけでは企業のビジネス内容はほとんどイメージしにくい時代となります。

全体相場の勢いの良さに目を奪われているうちに忘れ去られたようなIPO市場ですが、現在の時価総額1兆円超え企業も元は小さな企業であった筈です。成長志向をもった元気なアイデアあふれるユニークな企業がIPO市場に登場し投資家との共感を頂いて支持されながら発展していくことはとても重要なことだと思われれます。今年もIPO市場に登場してくる企業に大いに関心を示して頂きましたら幸いです。

(東京IPOコラムニスト 松尾範久)